

知的財産権をビジネスに活かす ～ブランド力を向上させ、他社から自社を守る～

INPIT兵庫県知財総合支援窓口 × 姫路ものづくり支援センター

厳しい企業間競争の下、製品や商品の付加価値を高めるための有効なツールの一つが知的財産権です。中小企業のみならず、さまざまな業種から寄せられる、アイデア段階から事業展開までの知的財産に関する課題に対し、INPIT兵庫県知財総合支援窓口と姫路ものづくり支援センターが連携してマンツーマンでアドバイスをしています。

知的財産権とは？

知的財産権制度とは、人間の幅広い知的創造活動によって生み出されたものを、創作した人の財産として保護するための制度です。知的財産権のうち、特許権、実用新案権、意匠権及び商標権の4つを「産業財産権」といい、新しい技術、新しいデザイン、ネーミングなどについて独占権を与え、模倣防止のために保護し、研究開発へのインセンティブを付与したり、取引上の信用を維持することによって、産業の発達を図ることを目的としています。これらの権利を取得することによって、一定期間、新しい技術などを独占的に実施（使用）することができます。



（出典：兵庫県発明協会 <https://jiihyogo.jp/business.html> 事業案内 をもとに商工会議所事務局作成）

こんなお悩みありませんか？

- ☒ 商標登録の効果を教えてほしい、考えている商品名を商標登録したい
- ☒ 発明した技術が新規性を持っているのか確認したい、特許として権利化したい
- ☒ 下請け企業として培ってきた技術や知財を活かして独自製品を開発したい
- ☒ 他社から自社の技術（特許取得済）を教えてほしいと申し入れがあった
- ☒ 大企業や大学の技術を使った事業化で、気をつけるポイントを教えてほしい
- ☒ 従業員による発明（職務発明）に対する規程について教えてほしい
- ☒ 取引先から秘密情報の管理強化を求められたので、現在の体制を点検したい
- ☒ 自社の独自技術（特許取得済）を組み込んだ製品の模倣品が出始めた
- ☒ 社内パソコンに保存していたマル秘情報がサイバー攻撃で漏えいしたかもしれない
- ☒ 侵害警告書が送られてきたが、どのような対応策をとればよいのか

（出典：知財ポータル <https://chizai-portal.inpit.go.jp/faq/> よくあるご相談 をもとに商工会議所事務局作成）

1つでもチェックがついたら ぜひご相談ください ➡

活用事例

有限会社アトリエケー

所在地 姫路市田寺4丁目5-12
代表者 代表取締役 北浦 基広
創業 1996年（平成8年）
事業内容 作業員の体にかかる負担を軽減する
様々なサポートウェアの開発・製造



1. 利用にいたる背景

アパレルメーカーから1996年に独立した北浦社長は、白色の綿素材が主流の男性用下着市場に色柄物のお洒落下着を投入し成功を収めました。しかし、先行して進出した市場にも関わらず、大手メーカーの進出により優位性が喪失し厳しい市場へと変わってしまいました。独自性創出のためニッチ市場への進出が必要と考え、男性用補正下着を開発し投入しました。

この男性用下着がきっかけとなり2015年に大ヒット商品となった、農業従事者向け「アグリパワースーツ」が開発された。現在は、建設や物流、介護医療分野などの従事者向け「ワーキングパワースーツ」を手掛けており、スタートより累計6万着以上を売り上げています。

北浦社長は、商品開発でシニアや女性の多方面への進出を可能とし、働き方改革で社会に貢献することを目指しています。



工場内の製造風景

2. 利用したきっかけと支援内容

今までの苦い経験を活かして「男性用補正下着」の知的財産による保護についてお問合せいただいたのがきっかけです。「アグリパワースーツ」の開発では姫路ものづくり支援センターでの相談会を通じて知財総合支援窓口を活用いただきました。

電話や相談会以外に弁理士の訪問相談を受けられて、特許1件、意匠2件、商標8件を権利化されました。

3. 利用後のビジネス上の効果

現在のビジネス分野を権利で保護することで、安心して新しい分野の開拓に注力できる、まさに「権利化で経営の基盤を守る」の例だと思えます。

開発主導型の企業様では、新製品や新技術の保護を行うことで大学などの外部の開発支援や助成金などを受けながらの開発が可能となります。



兵庫県立大学との実験風景

4. 活用企業さまのお声

成熟していないマーケットを対象に事業を展開しておりますので、知的財産権で商品を守ることが重要なポイント点であると確信しております。知的財産権といえば費用と手間が掛かるイメージがありましたが、兵庫県発明協会様に相談させていただき、重要性とともに出願も簡単だと教えていただきチャレンジしました。弊社のような零細企業でも特許・意匠権・商標を取得できそれが今貴重な財産になっております。常に業界の半歩先を歩くということを信条に日々研究開発しております。この度は第4弾のパワーアシストスーツを2020年10月より展開します。世の中に必要とされている製品を開発することがHIT商品につながると社員全員で前に進んでおります（新製品も特許出願中です）。



代表取締役 北浦 基広

ご相談の流れ

STEP 1

お電話もしくはメールで
姫路ものづくり支援センターへ
お問合せください。
相談日を調整いたします。

姫路ものづくり支援センター
(姫路商工会議所・姫路市)
TEL 079-221-8989
FAX 079-222-6005
MAIL kougyou@himeji-cci.or.jp

INPIT兵庫県知財総合支援窓口と姫路ものづくり支援センターが連携して、中小企業等の知的財産に関する悩みや課題などの相談に応じるため、窓口支援担当者がさまざまな支援を行っています。ご相談は無料です。まずはお気軽にご相談ください。

STEP 2

知財総合支援窓口の担当者が
ご相談にお答えします。
(会場：姫路ものづくり支援センター)

STEP 3

必要に応じて弁護士や弁理士等の
専門家が支援を行います。
知財経営のステップアップに向けた
フォローアップ支援も行います。

INPIT兵庫県知財総合支援窓口
(一般社団法人兵庫県発明協会)
TEL 078-731-5847
FAX 078-731-6248
MAIL info@jiihyogo.jp